

## 新宿区の子どもと家庭をとりまく状況

### 目次

1．人口の状況.....	1
1 - 1 総人口、年齢3区分別人口の推移.....	1
1 - 2 年齢構造係数の推移.....	1
1 - 3 男女別年齢5歳階級別の人口推移.....	2
1 - 4 18歳未満の児童人口の推移.....	3
2．世帯の状況.....	4
2 - 1 世帯数の推移.....	4
2 - 2 未婚率.....	5
2 - 3 労働力率.....	6
3．子どもに関する人口の状況.....	7
3 - 1 出生数の推移.....	7
3 - 2 合計特殊出生率.....	8
3 - 3 きょうだいの数.....	9
4．子育て支援サービスの実施状況.....	10
4 - 1 乳幼児の保育状況.....	10
4 - 2 保育の実施人員、待機児童数の推移.....	11
4 - 3 学童クラブ在籍児童数.....	12
5．次世代育成支援に関する調査結果.....	13
5 - 1 子どもの世話を主にしている人の就労状況.....	13
5 - 2 子どもの世話を主にしている人の就労の意思.....	15
5 - 3 子育ての楽しさ.....	17
5 - 4 子育てのつらさ.....	18
5 - 5 子育ての不安や悩み.....	19
5 - 6 子どもと外出するとき困ること.....	20
5 - 7 保育サービスの利用希望.....	21
5 - 8 放課後に子どもを過ごさせたい場所.....	22
5 - 9 学童クラブ利用意向.....	23
5 - 10 放課後子どもひろばの利用意向等.....	24
5 - 11 わからないこと、困ったこと、悩みごとがあるときに相談する相手.....	25
5 - 12 子育てに関する情報をどのように得ていますか.....	26
5 - 13 新宿区の子育てのしやすさ.....	27
5 - 14 地域で求められる子育て支援の取組み.....	29
5 - 15 子どもを育てやすい社会に必要なこと.....	30
5 - 16 新宿区での子育ての継続意向.....	31
5 - 17 仕事と生活のバランス.....	32

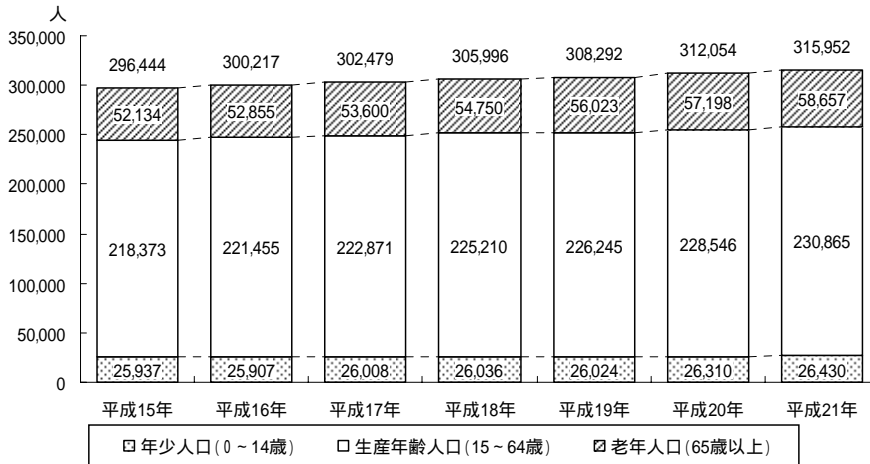
# 1. 人口の状況

## 1-1 総人口、年齢3区分別人口の推移

平成15年からみると、新宿区では総人口が増加しています。

年齢別にみると、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口、65歳以上の老年人口の全ての年齢で、人口は微増となっており、年少人口についても人口は増加となっています。

【年齢3区分別人口の推移】



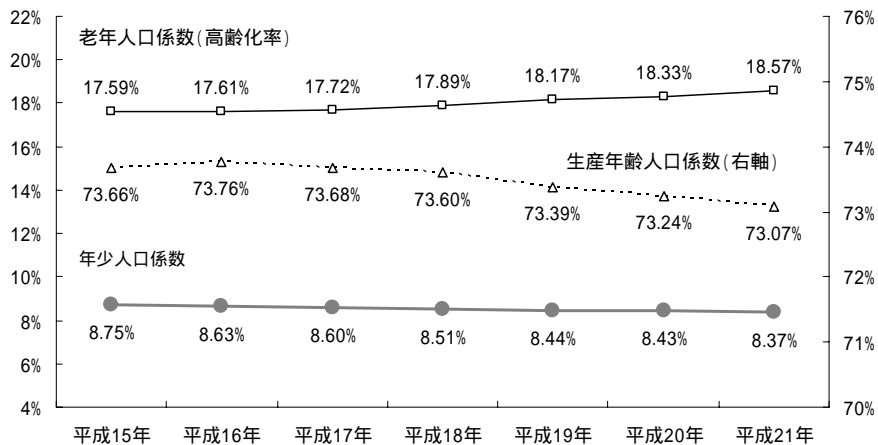
出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年

## 1-2 年齢構造係数の推移

それぞれの年齢別人口が、区の総人口に占める割合をみると、平成15年より、年少人口は8%台で推移していますが、平成18年まで8%台後半であった割合が、平成19年より8%台前半になり、微減が続いています。

老年人口は平成15年より一貫して増加し、生産年齢人口は平成18年より減少に転じています。

【年齢構造係数の推移】



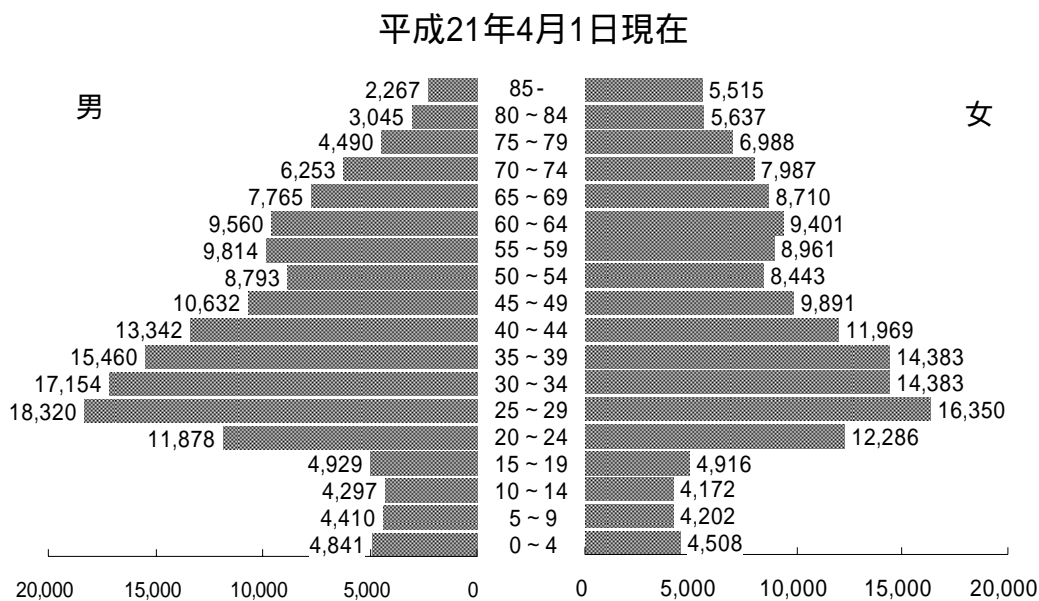
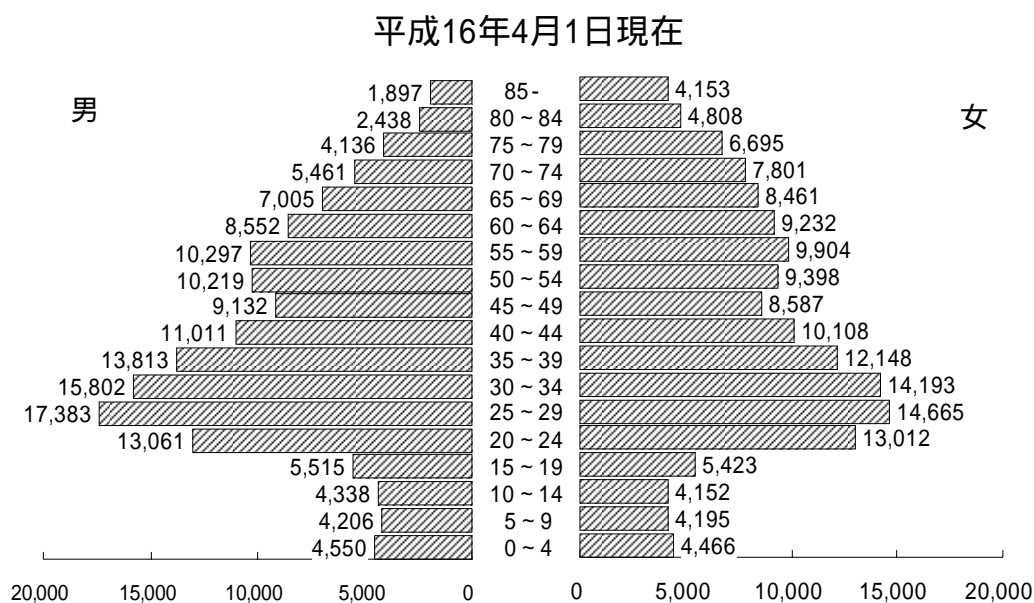
出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年

### 1 - 3 男女別年齢5歳階級別の人口推移

平成21年と平成16年の男女別年齢5歳階級別の人口を比較すると、区の人口の構成には大きな変化は見られません。

区では25～29歳の人口が最も数が多く、下と上が少なく、中間が大きいつぼ型の人口ピラミッドの頂点となっています。

人口は20～24歳から急激に少なくなり、平成21年には、15～19歳以下の人口は、25～29歳人口の30%前後の人口となっています。



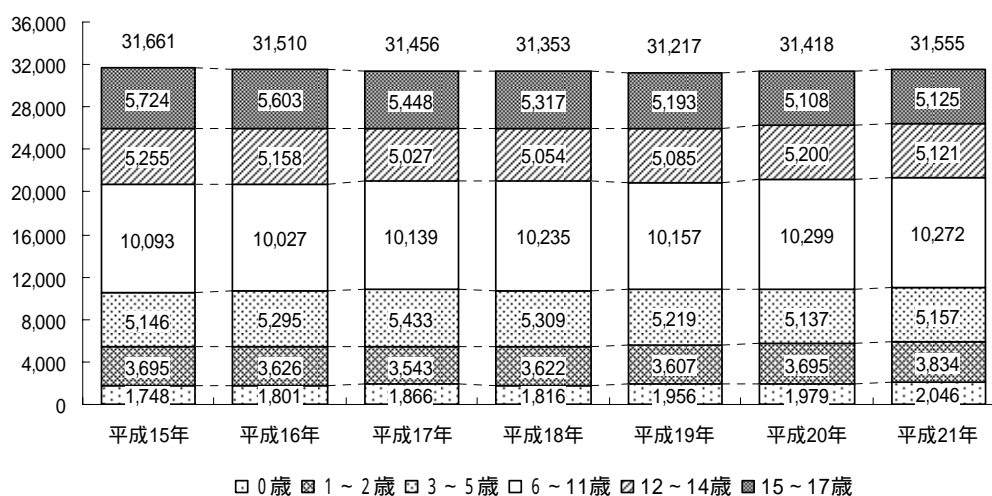
出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年

## 1 - 4 18歳未満の児童人口の推移

18歳未満の人口は、平成15年から平成19年にかけて微減となっていました。平成20年からは微増に転じています。平成17年からは、特に0歳、1～2歳の児童人口が増加しています。また6～11歳、12～15歳の児童人口も、年によって増減はあるものの、増加となっています。

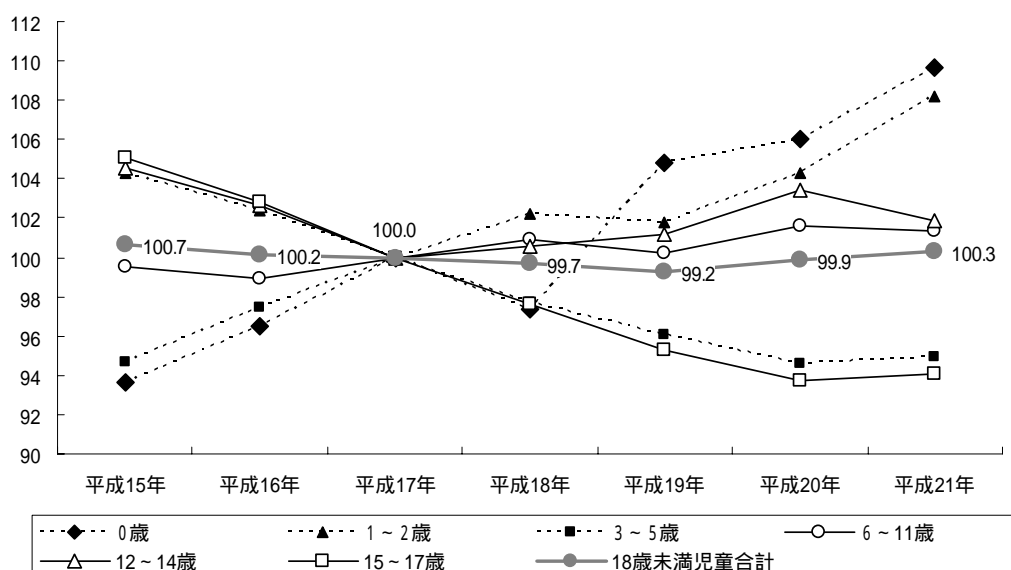
一方、3～5歳、15～17歳の児童人口は減少が続いています。

【18歳未満の児童人口の推移】



出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年

【18歳未満児童人口の推移（平成17年4月1日現在を100としたもの）】



出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年4月1日

## 2. 世帯の状況

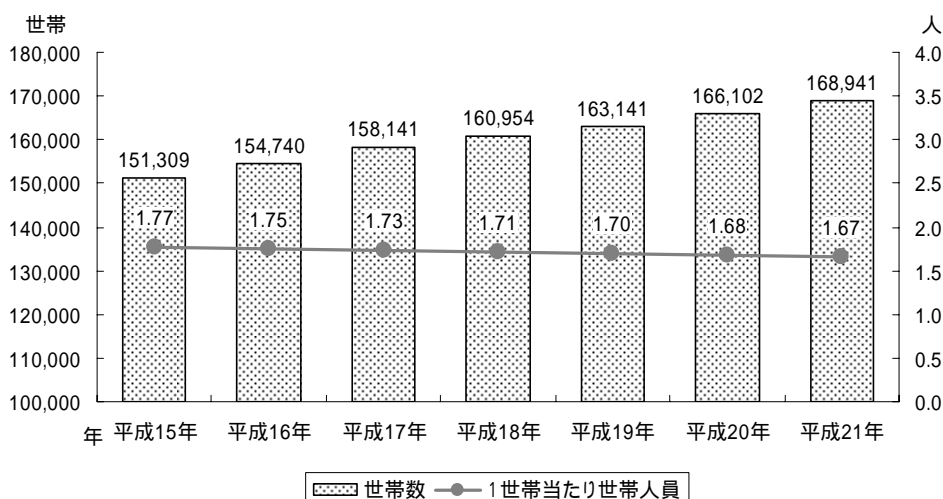
### 2-1 世帯数の推移

区では平成15年から世帯数は一貫して増加しています。一方、1世帯当りの世帯人員は減少となっています。

家族類型別にみると、区では単独世帯の割合が高く、平成17年の国勢調査では、区の一般世帯の中の約60%が単独世帯となっています。

昭和60年からの推移では、単独世帯が34.1%増加となっているのに対し、三世代家族は67.4%減少となっています。また、核家族世帯は、4.9%の減少、ひとり親世帯が19.6%増加となっています。

【世帯数及び1世帯当たり世帯人員の推移】



出典：住民基本台帳 各年4月1日

【家族類型別世帯数の推移】

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	増減率 (S60 H17)
実数	一般世帯数	152,263	134,639	136,647	153,473	170,957	12.3%
	単独世帯	73,698	63,608	69,974	85,770	98,923	34.2%
	核家族世帯	65,332	60,826	57,460	58,787	62,123	-4.9%
	ひとり親世帯	8,713	8,622	8,903	9,588	10,422	19.6%
	三世代家族	5,598	4,146	3,328	2,431	1,827	-67.4%
構成割合	単独世帯	48.4%	47.2%	51.2%	55.9%	57.9%	
	核家族世帯	42.9%	45.2%	42.0%	38.3%	36.3%	
	ひとり親世帯	5.7%	6.4%	6.5%	6.2%	6.1%	
	三世代家族	3.7%	3.1%	2.4%	1.6%	1.1%	

ひとり親世帯とは「男親と子供から成る世帯」と「女親と子供から成る世帯」の合計を指す。

三世代家族とは「夫婦、子供と両親から成る世帯」と「夫婦、子供と片親から成る世帯」の合計を指す。

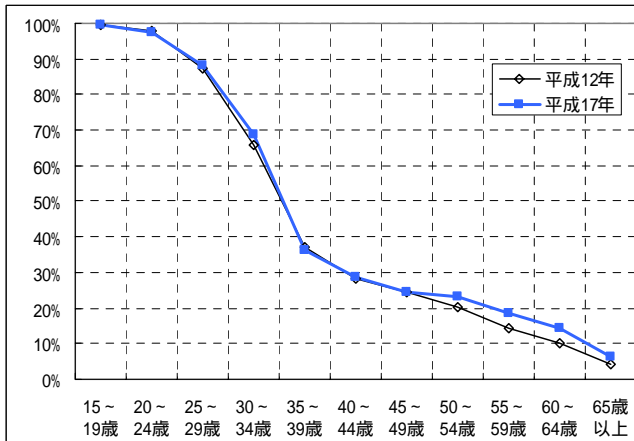
出典：総務省「国勢調査」各年

## 2 - 2 未婚率

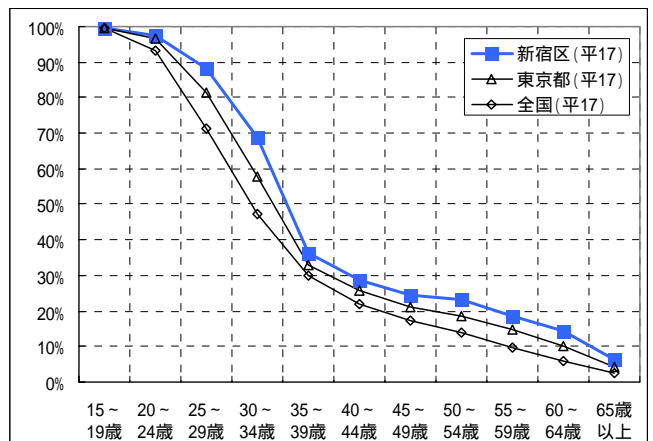
平成12年と平成17年の区民の未婚率を比較すると、男女ともに、平成17年の未婚率がやや高くなっています。

全国、東京都との比較では、男女ともにほぼ全ての年代で未婚率は高くなっています。特に、20歳代後半から30歳代前半において、全国、東京都よりも未婚率が高くなっています。

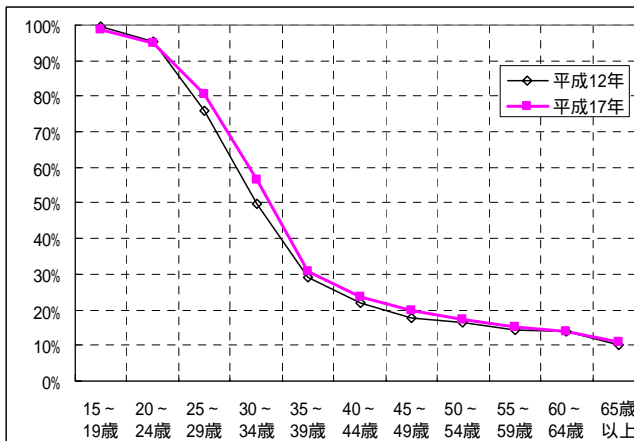
【時系列比較（男性）】



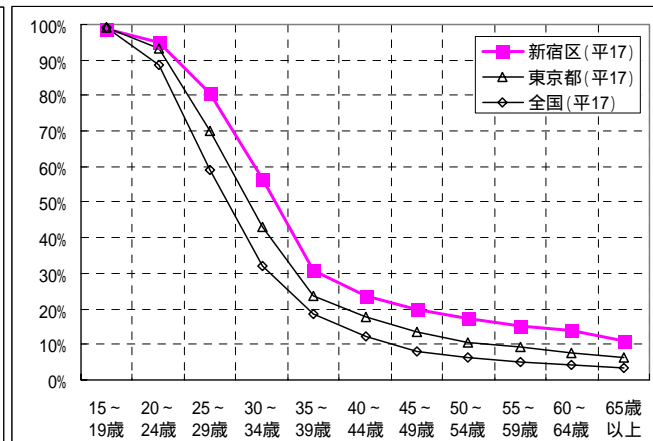
【全国、東京都との比較（男性）】



【時系列比較（女性）】



【全国、東京都との比較（女性）】



出典：総務省「国勢調査」各年

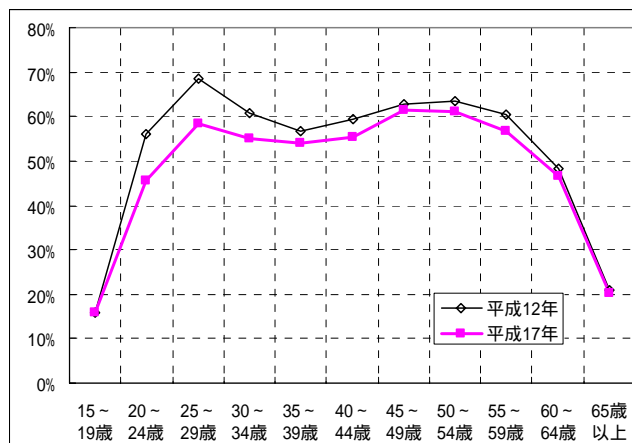
## 2 - 3 労働力率

平成 12 年と平成 17 年の区内の女性の労働力率を比較すると、平成 17 年の労働力率が低くなっています。全国、東京都との比較では、ほぼ全ての年代で低くなっています。

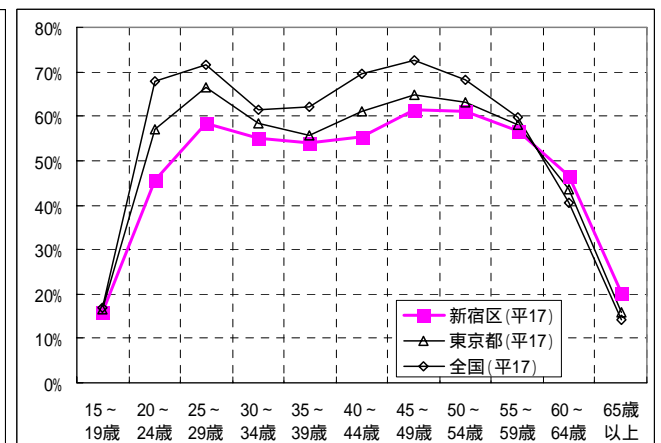
平成 12 年から平成 17 年にかけて、特に 20 歳代、30 歳代前半における労働力率の低下がみられます。また特に 20 歳代と 40 歳代において、全国、東京都の労働力率より低い値となっています。

一方、区の特徴として、子育て世代の女性が離職することによって生じる M 字曲線の底が全国、東京都より浅く、台形に近づいていることがあげられます。

【時系列比較】



【全国、東京都との比較】



出典：総務省「国勢調査」各年

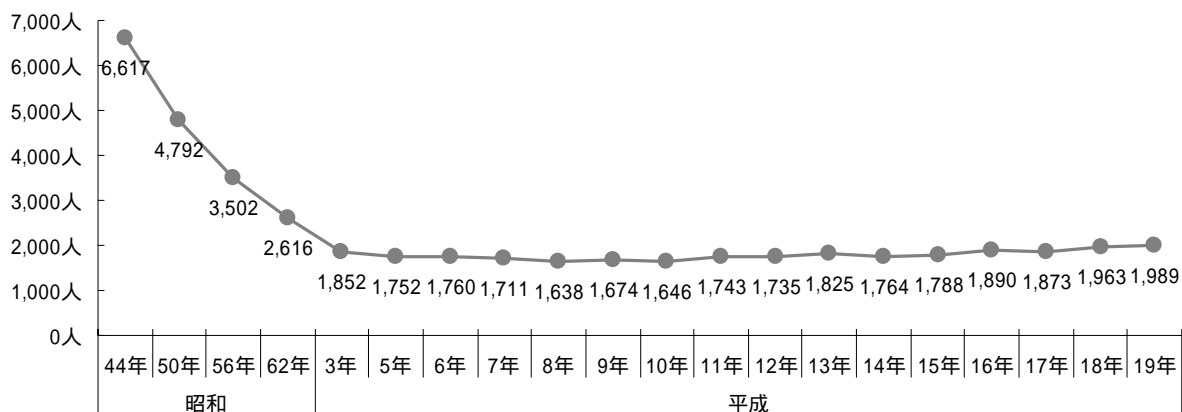
### 3 . 子どもに関する人口の状況

#### 3 - 1 出生数の推移

昭和 44 年に生まれた子どもの数は 6,617 人でした。区の出生数はその後減少が続き、平成 3 年には、2,000 人を割りました。

平成 3 年より平成 8 年にかけて、出生数は減少し続けましたが、平成 9 年よりは微増に転じ、年によって増減はあるものの、平成 14 年からは微増が続いています。

【出生数の推移】



出典：新宿区「新宿区の概況」各年（区より提供データより）

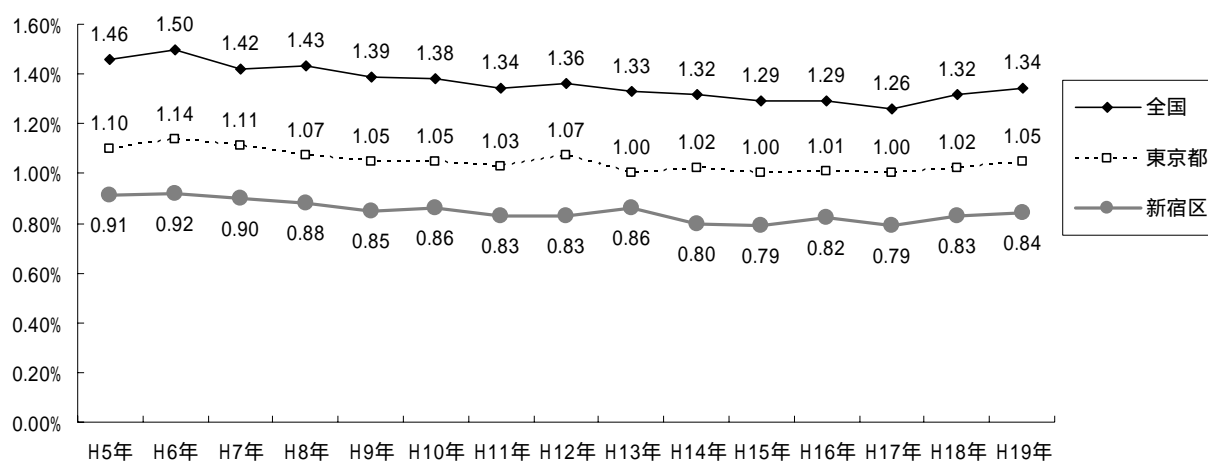


### 3 - 2 合計特殊出生率

新宿区の合計特殊出生率は、全国の都道府県で最も低い東京都の中でも、さらに低い値で推移しています。

平成 15 年、平成 17 年に合計特殊出生率は 0.8 を割りましたが、平成 18 年よりは、0.8 以上で推移しています。

【合計特殊出生率の推移】



出典：東京都、新宿区の合計特殊出生率：東京都福祉保健局「人口動態統計」  
 全国の合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計 年報」

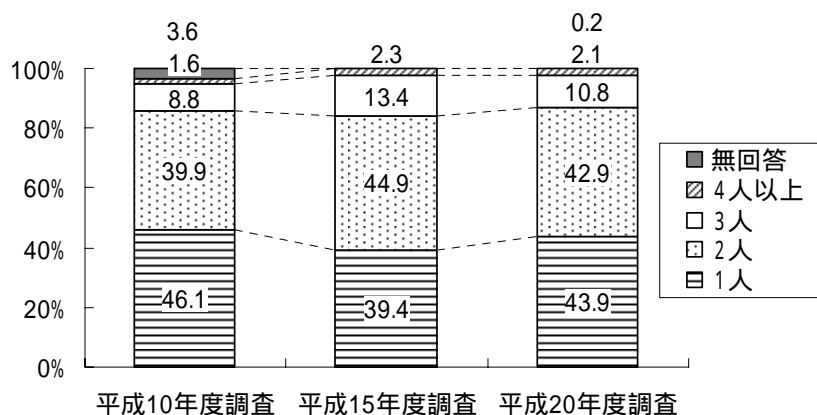
### 3 - 3 きょうだいの数

平成 10 年、平成 15 年の調査結果と平成 20 年の調査結果を比較すると、きょうだいの数は年度によって増減があります。

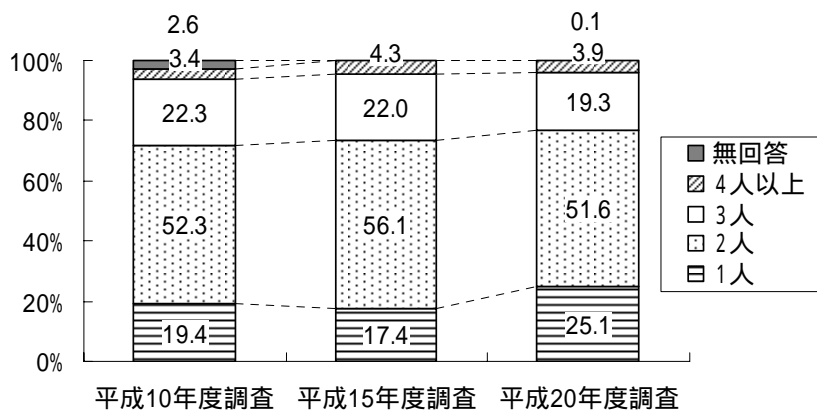
平成 15 年度調査から平成 20 年度調査にかけて、就学前児童では、1 人がやや増加し、2 人、3 人はやや減少となっています。

小学生では、1 人が増加し、2 人が減少となっています。

【就学前児童のきょうだいの数】



【小学生のきょうだいの数】



出典：新宿区「新宿区次世代育成支援計画（平成 17 年度～平成 21 年度）  
新宿区「新宿区次世代育成支援に関する調査」H20 年

## 4 . 子育て支援サービスの実施状況

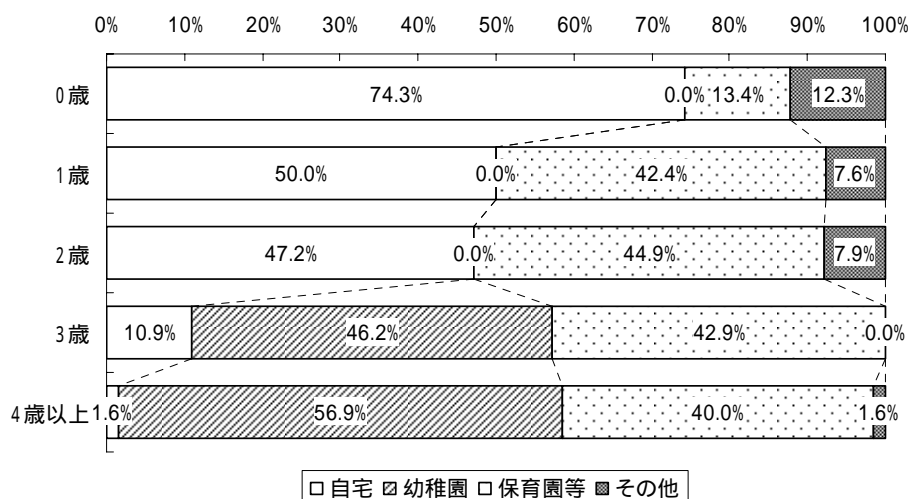
### 4 - 1 乳幼児の保育状況

0歳では7割以上の子どもが自宅で過ごしています。

1歳および2歳では、自宅が約5割、保育園等が約4割です。

3歳、4歳以上では、幼稚園で過ごす子どもが増え、4歳以上では約6割が幼稚園、4割が保育園等となっており、自宅での保育はわずかとなっています。

【乳幼児の保育状況（次世代育成支援に関する調査結果）】

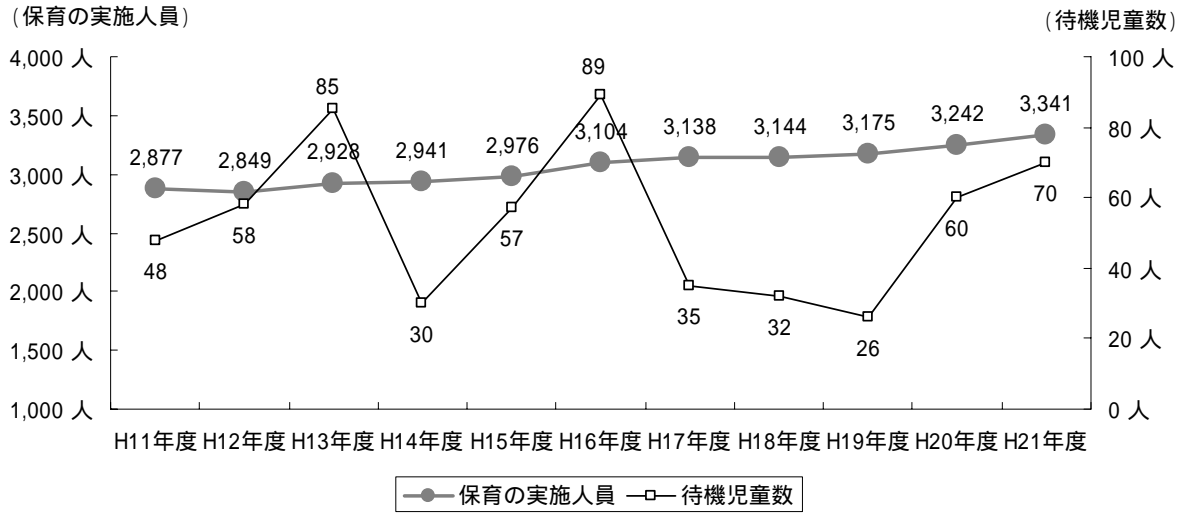


出典：新宿区「新宿区次世代育成支援に関する調査」平成20年

#### 4 - 2 保育の実施人員、待機児童数の推移

保育の実施人員は一貫して増加していますが、待機児童数が50名を超える年度があります。個別の保育サービスごとに人員をみると、どのサービスにおいても人員は増加となっています。

【保育の実施人員】(4月1日現在)



出典：保育の実施人員：新宿区「新宿区の概況」平成20年度  
待機児童数：新宿区子ども家庭部保育課資料

【各種保育サービスの実施状況】

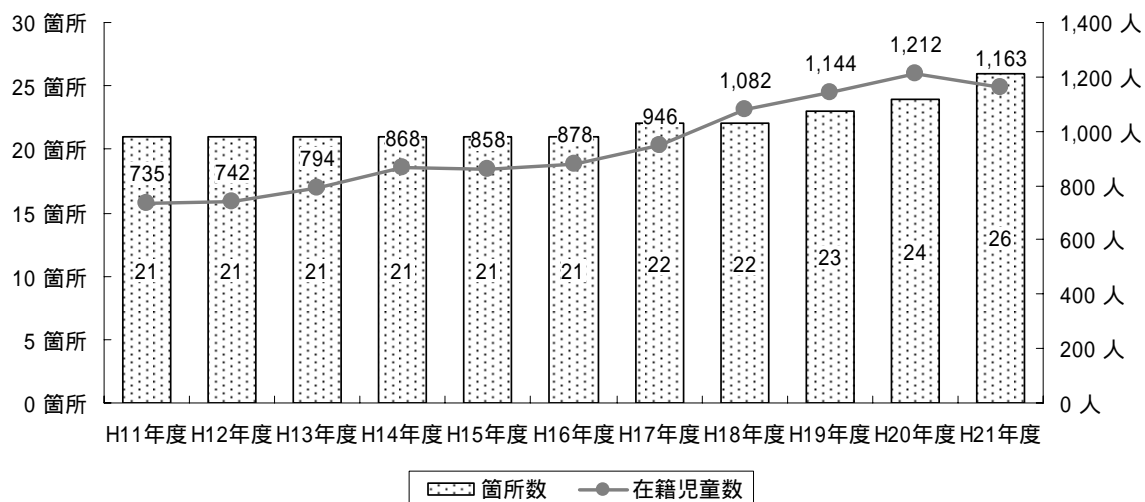
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
保育園(区立)	2,253人	2,269人	2,194人	2,242人
保育園(私立)	914人	901人	998人	1,023人
認証保育所	93人	92人	160人	195人
保育室	55人	48人	37人	66人
家庭福祉員	8人	4人	9人	6人
総数	3,323人	3,314人	3,398人	3,532人

出典：新宿区「新宿区の概況」H20年度

#### 4 - 3 学童クラブ在籍児童数

学童クラブは、平成 17 年度より箇所数が増加となっています。在籍児童数は毎年増加しましたが、平成 21 年度は減少となっています。

【学童クラブ在籍児童数（公立のみ）】



出典：新宿区「新宿区の概況」H20年度

## 5 . 次世代育成支援に関する調査結果

### 5 - 1 子どもの世話を主にしている人の就労状況

子どもの年齢が上がるにつれ、子どもの世話を主にしている人が「就労している」割合が高くなり、中学生保護者では、約7割が就労しています。

同時に、「以前は就労していたが、現在は就労していない」とする人の割合は、子どもの年齢が上がるにつれ、低くなっています。一方、「これまで就労したことはない」とする人は、子どもの年齢に関わらず、一定割合います。

世帯収入別に保護者の就労状況をみると、「200万円未満」(57.9%)、「1,500万円以上」(57.1%)では、子どもの世話を主にしている人が「就労している」割合は約6割となっています。

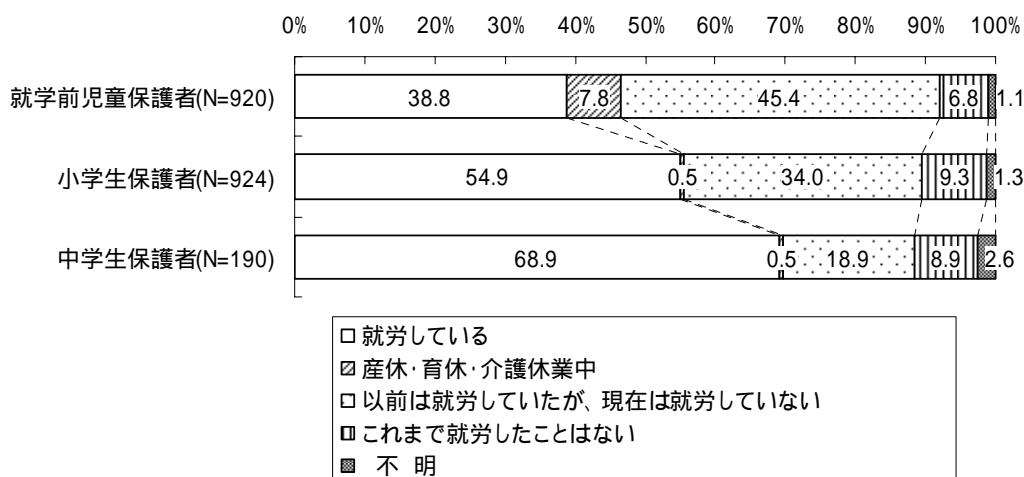
「200万円未満」から「500万円～700万円未満」にかけて、「就労している」人の割合は減少します。

「500万円～700万円未満」では「就労している」人の割合は25.8%で、最も割合が低くなり、逆に「以前は就労していたが、現在はしていない」が61.3%で最も高くなります。

「500万円～700万円未満」から「1,500万円以上」にかけては、再び「就労している」人の割合が増加します。

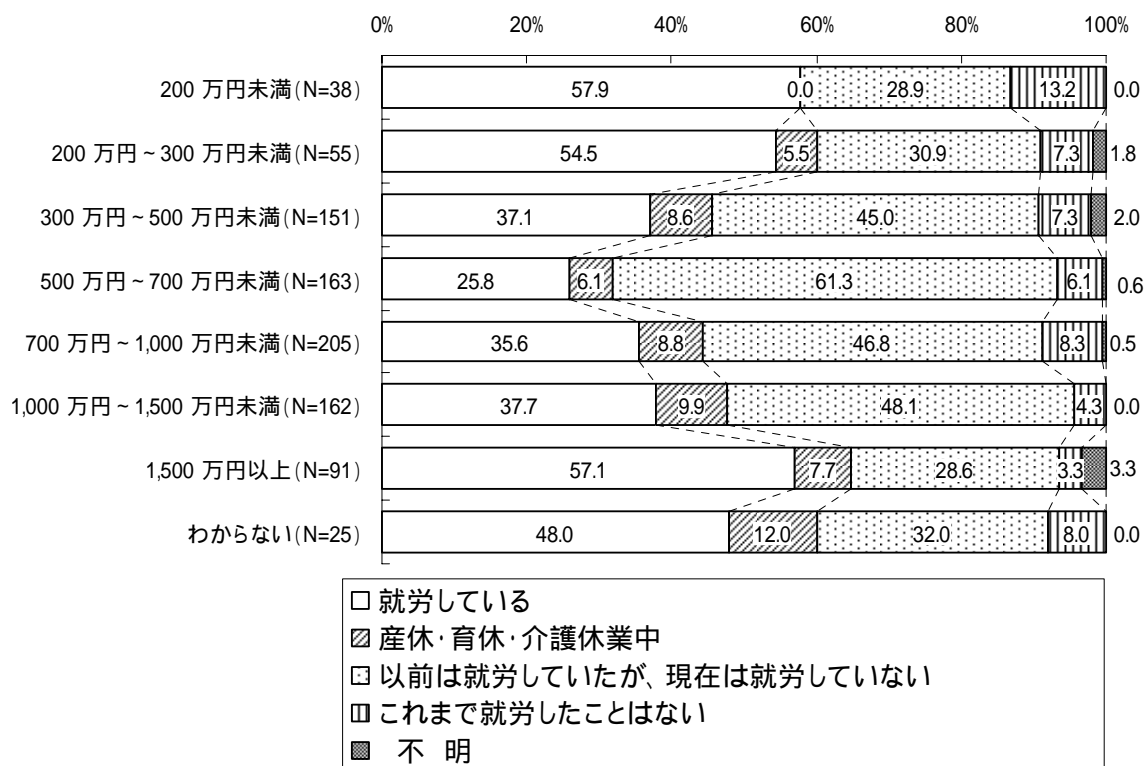
「産休・育休・介護休業中」である人は、「200万円未満」以外の全ての収入額の世帯で、約6～10%ほどいますが、「200万円未満」では0%となっています。

【子どもの世話を主にしている保護者の就労状況】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年より

【世帯収入別の保護者の就労状況（就学前児童の保護者）】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成20年より

## 5 - 2 子どもの世話を主にしている人の就労の意思

現在就労していない人について、就労の意思をみると、「就労する意思がある（一年より先に就労したい）」人の割合は、子どもの年齢が上がるにつれ減少し、「就労する意思はない」とする人の割合が高くなっています。

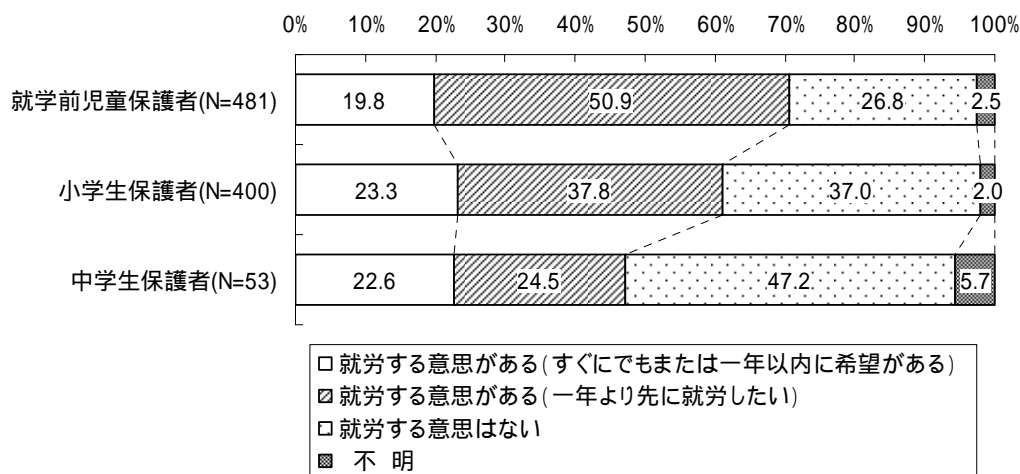
一方、子どもの年齢に関わらず、「就労する意思がある（すぐにでもまたは一年以内に希望がある）」人の割合は約2割で一定しています。

世帯収入別に保護者の今後の就労意思をみると、「200万円未満」（50.0%）、「200万円～300万円未満」（52.4%）で、「就労する意思がある（すぐにでもまたは一年以内に希望がある）」人の割合が高く、約5割が就労を希望しています。

300万円以上の収入の世帯では、収入の額が上がるにつれ、「就労する意思がある（一年より先に就労したい）」、「就労する意思がある（一年より先に就労したい）」を合計した、就労の意思がある人の割合は順次下がっており、「就労する意思はない」人の割合が上がっています。

「1,500万円以上」の世帯では、「就労する意思はない」人の割合が最も高く、41.4%となっています。

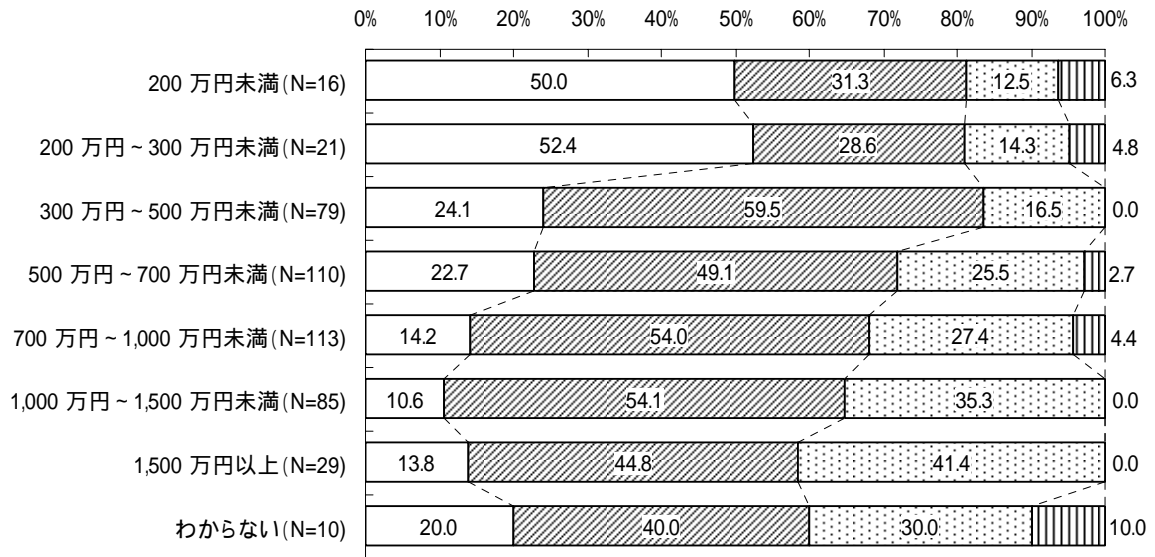
【今後の就労意思】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年



【世帯収入別の今後の就労意思（就学前児童の保護者）】

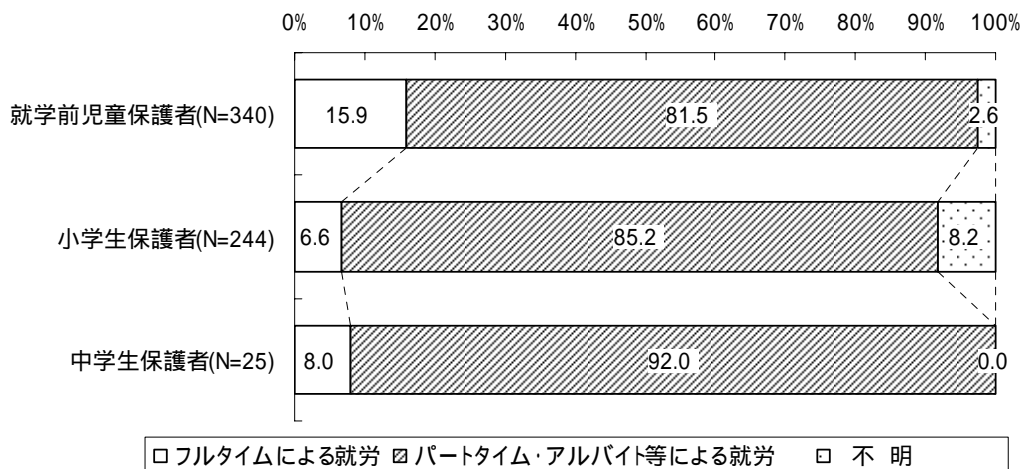


- 就労する意思がある(すぐにもまたは一年以内に希望がある)
- ▨ 就労する意思がある(一年より先に就労したい)
- ▤ 就労する意思はない
- ▩ 不明

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成20年

就労する意思がある人について、希望する就労の形態をみると、どの子どもの年齢においても、「パートタイム・アルバイト等による就労」が回答の割合の大半を占めています。

【就労の希望形態】



- フルタイムによる就労
- ▨ パートタイム・アルバイト等による就労
- ▩ 不明

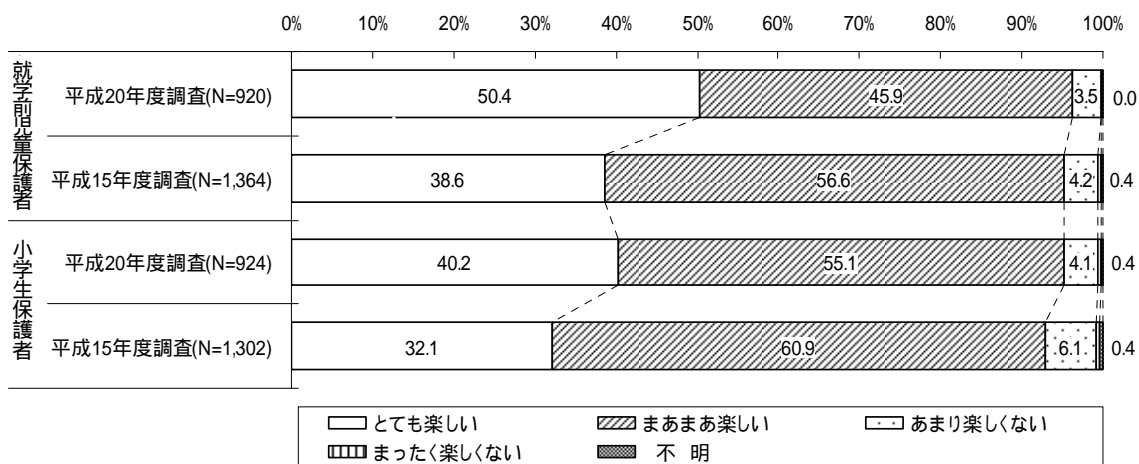
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年

### 5 - 3 子育ての楽しさ

就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに、平成 15 年度調査より、子育てが「とても楽しい」とする人の割合が高くなっています。

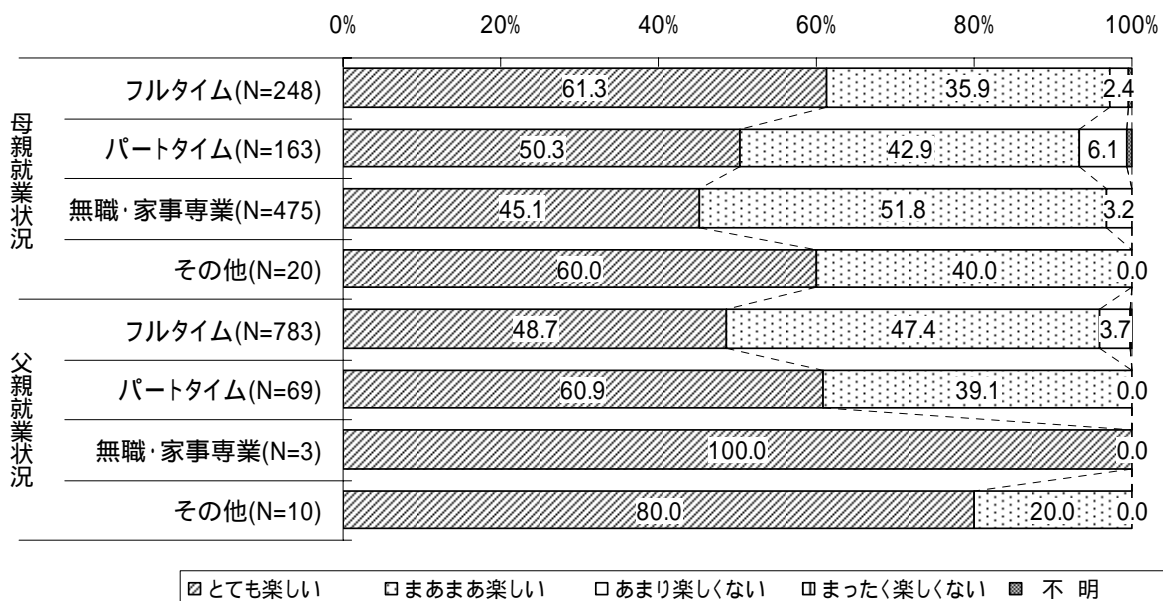
親の就労状況別に子育ての楽しさをみると、就学前児童の母親では、子育てが「とても楽しい」とする人の割合は、「その他」を除くと、「フルタイム」が最も高く、61.3%となっています。次いで「パートタイム」が 50.3%、「無職・家事専業」が 45.1%となっています。

【子育ての楽しさ】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

【親の就労状況別子育ての楽しさ（就学前児童の保護者）】



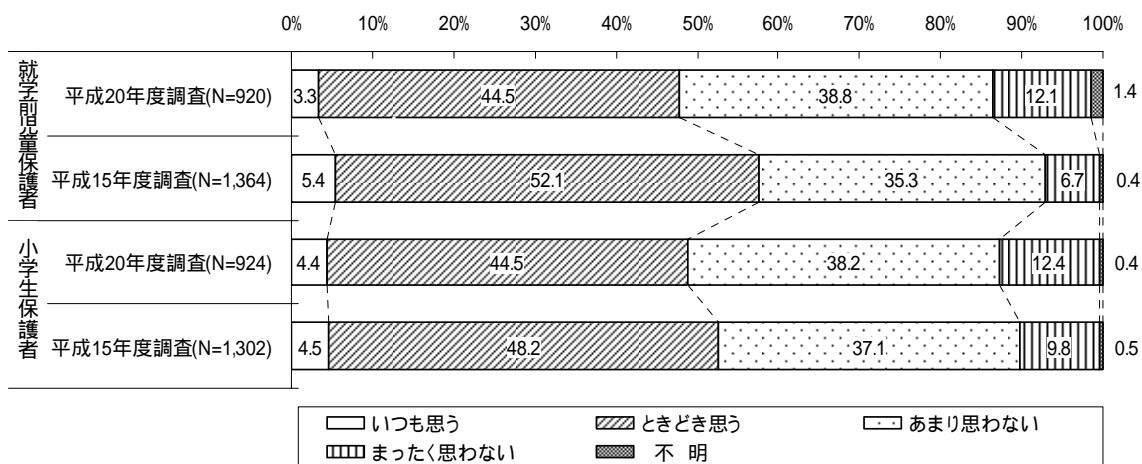
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成 20 年

## 5 - 4 子育てのつらさ

就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに、平成 15 年度調査より、子育てが「いつも思う」、「ときどき思う」とする人の割合は低くなっています。

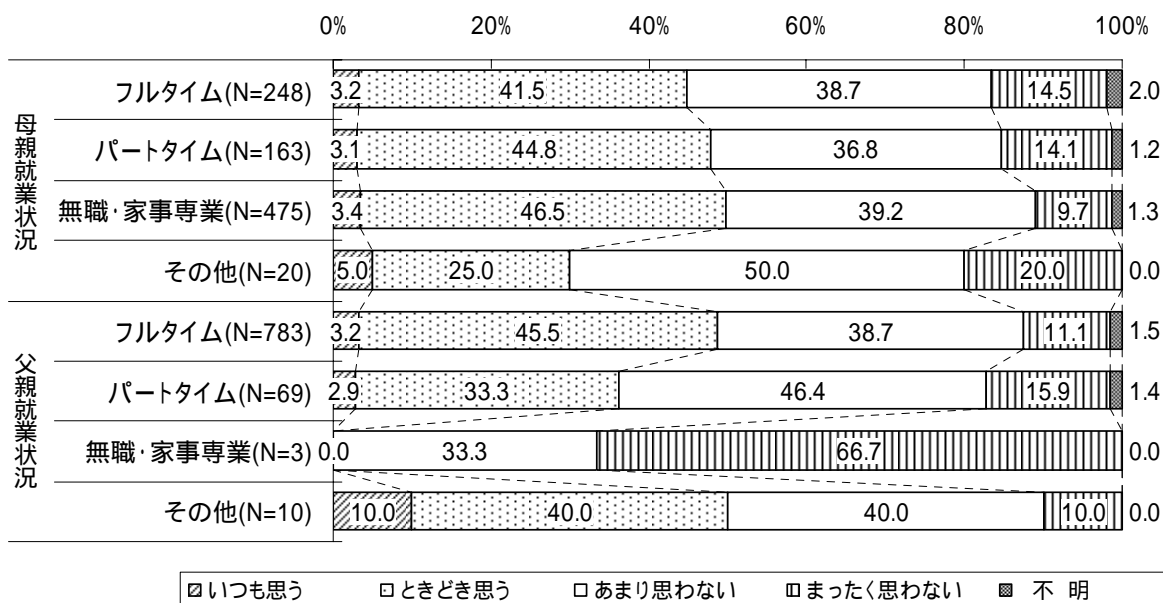
親の就労状況別に子育てのつらさをみると、就学前児童の母親では、「無職・家事専業」において、子育てが「いつも思う」、「ときどき思う」の合計が 49.9%となっており、就業している人よりつらいと思う割合が高くなっています。次いで「パートタイム」が 47.9%、「フルタイム」が 44.7% となっています。

【子育てのつらさ】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

【親の就労状況別子育てのつらさ（就学前児童の保護者）】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成 20 年

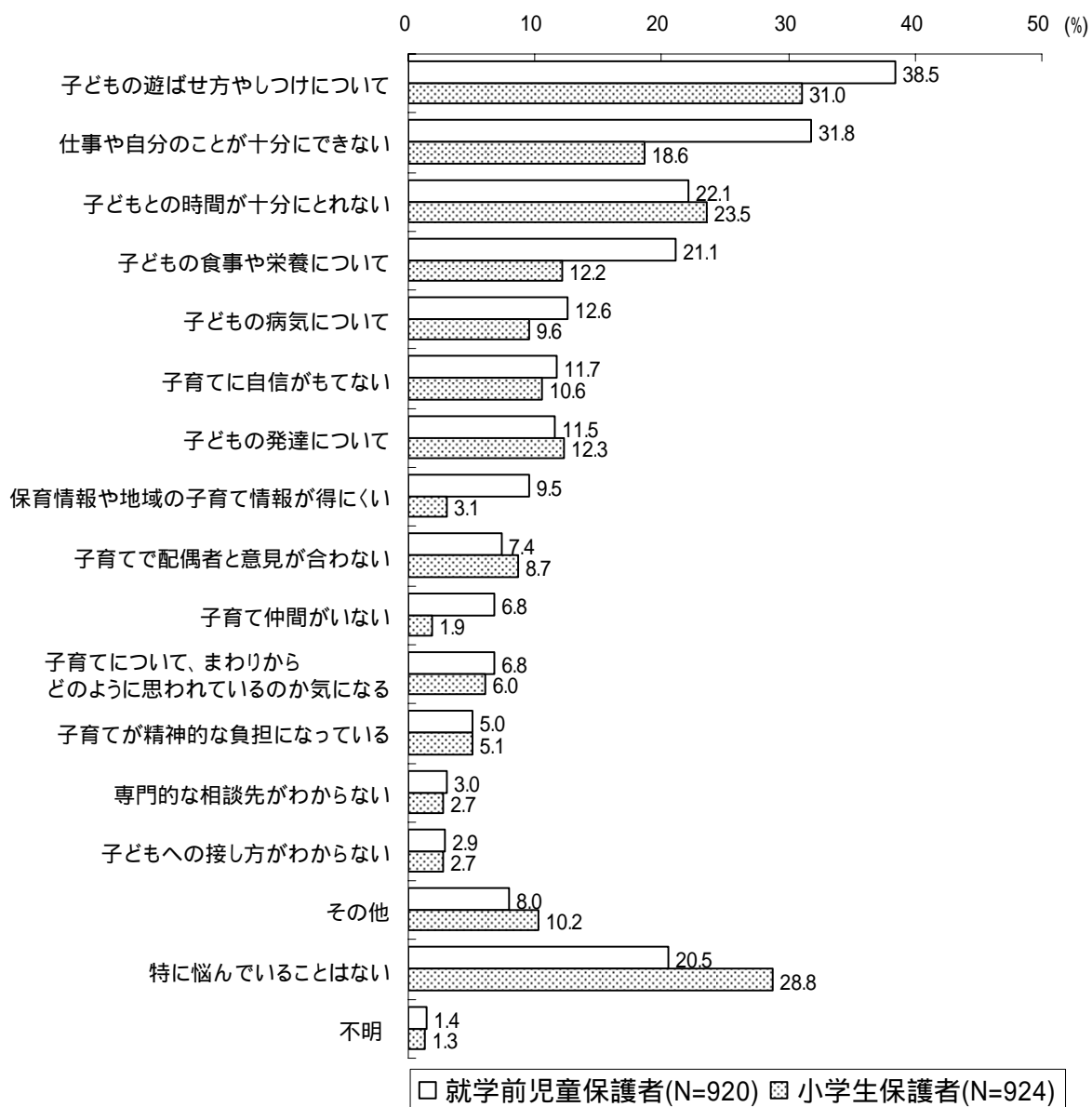
## 5 - 5 子育ての不安や悩み

就学前児童の保護者では、「子どもの遊ばせ方やしつけについて」(38.5%)、「仕事や自分のことが十分にできない」(31.8%)の割合が高く、また小学生の保護者と比較しても高くなっています。

特に「仕事や自分のことが十分にできない」(31.8%)において、小学生の保護者の回答(18.6%)との差が大きくなっています。

小学生の保護者では、「子どもの遊ばせ方やしつけについて」(31.0%)が最も高く、次いで「特に悩んでいることはない」(28.8%)、「子どもとの時間が十分にとれない」(23.5%)となっています。

【子育てに関する悩み】



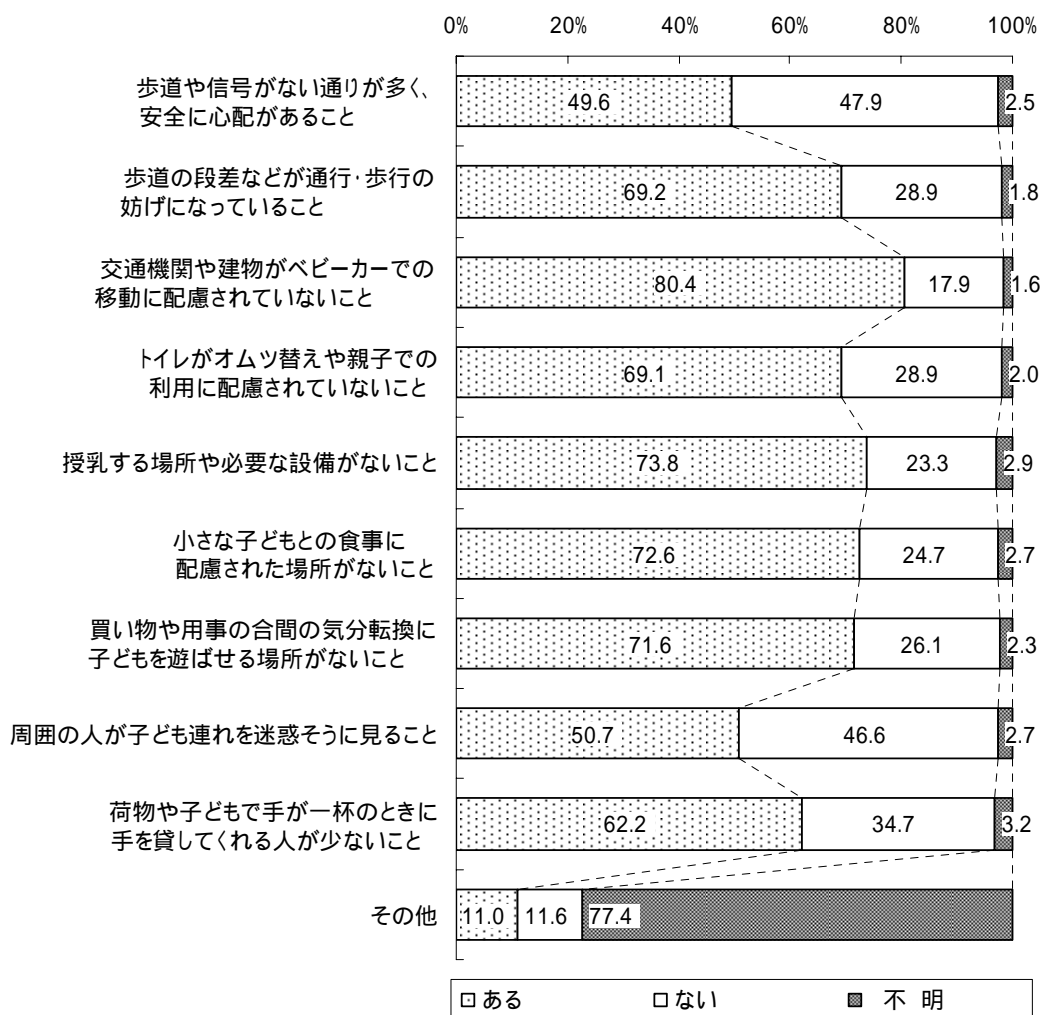
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年

## 5 - 6 子どもと外出するとき困ること

就学前児童の保護者が、子どもと外出するとき困ることは、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」が80.4%で最も高くなっています。次いで「授乳する場所や必要な設備がないこと」が73.8%、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと」が72.6%、「買い物や用事の合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がないこと」が71.6%といずれも割合が高くなっています。

小学生の保護者が、子どもが外出しているときに心配なことは、「子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」が87.4%で最も高く、次いで「塾や習い事などで帰りが遅くなる時に、不審者にあわないか心配なこと」が66.9%となっています。

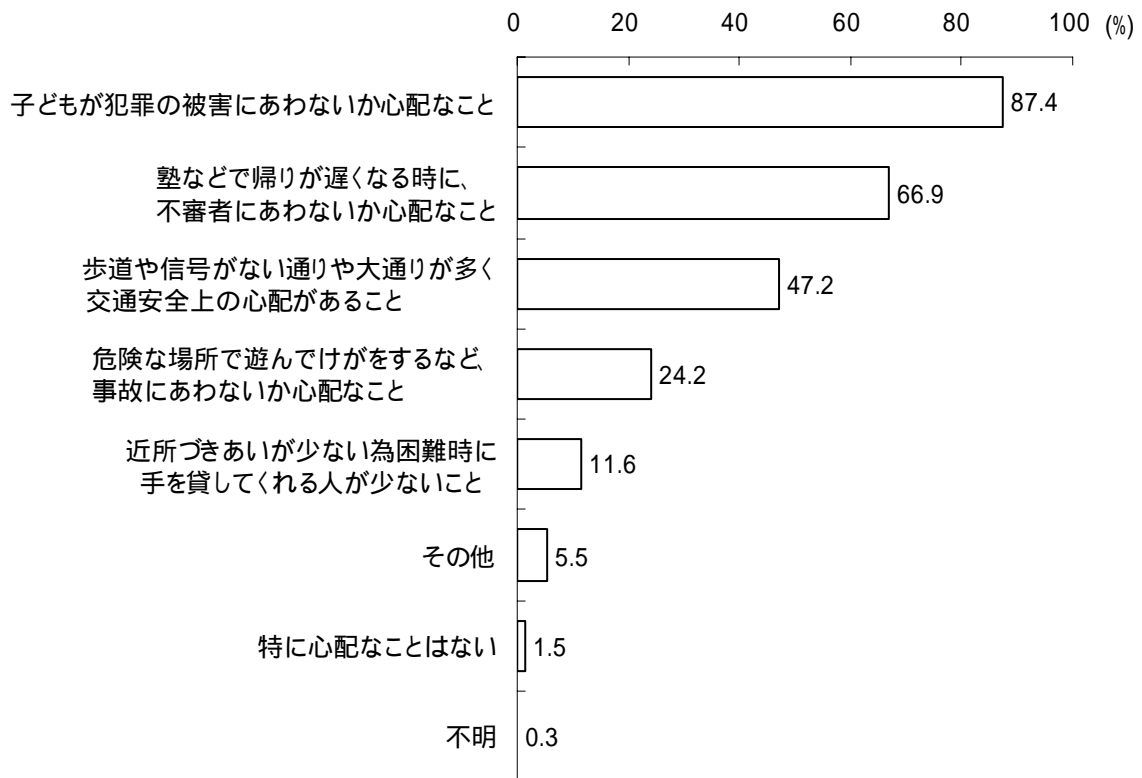
【子どもと外出の際に困ること（就学前児童の保護者）】



N=920

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成20年

【子どもが外出しているときに心配なこと（小学生の保護者）】



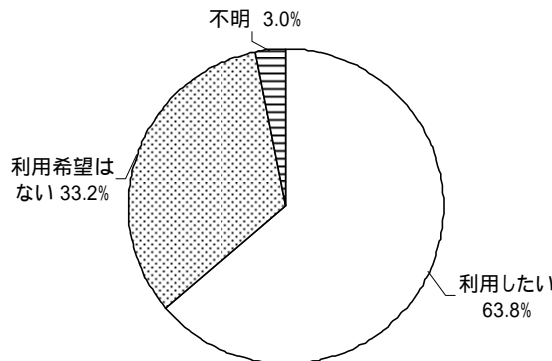
N=924

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（小学生の保護者調査）」平成 20 年

5 - 7 保育サービスの利用希望

保育サービスの利用意向をみると、「利用したい」が 63.8%となっています。

【保育サービスなどを利用したいですか（就学前児童の保護者）】



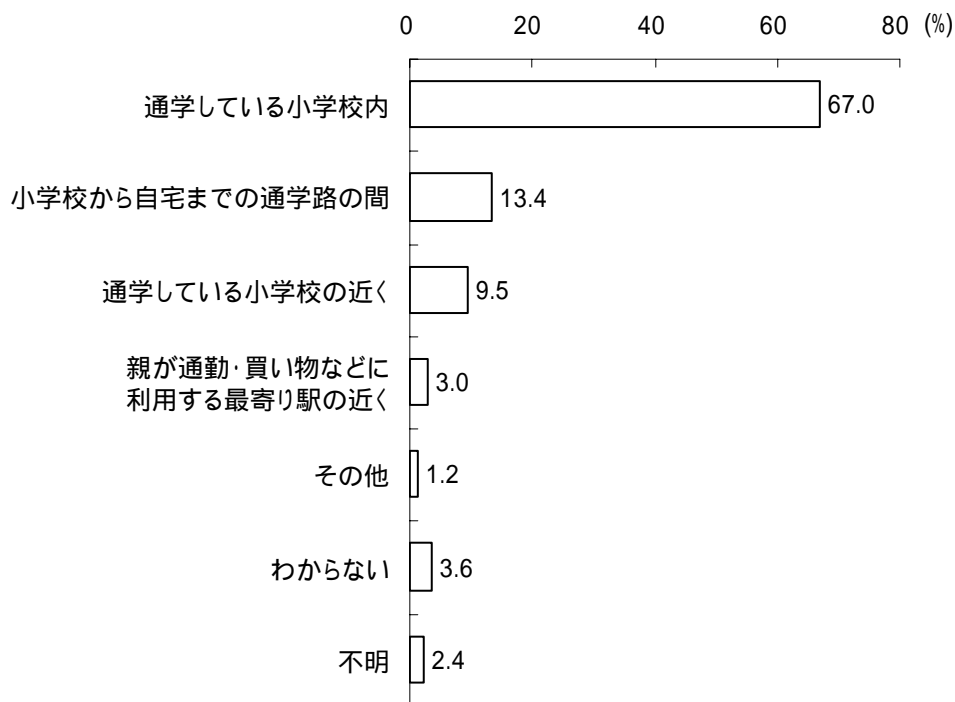
N=920

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童保護者調査）」平成 20 年

## 5 - 8 放課後に子どもを過ごさせたい場所

子どもが小学生になった時に放課後過ごさせたい場所については、「通学している小学校内」が圧倒的に高く、67.0%となっています。

【小学生の放課後の居場所はどこにあると利用しやすいか（就学前児童の保護者）】



N=920

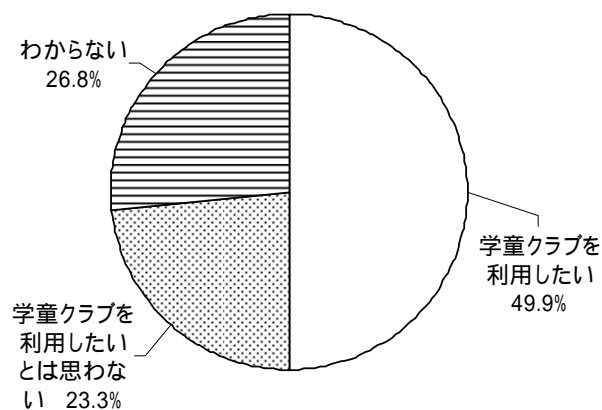
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成20年

## 5 - 9 学童クラブ利用意向

就学前児童の保護者では、子どもが小学校に入学したあと、「学童クラブを利用したい」とする人の割合が約5割となっています。

小学生の保護者では、「利用希望はない」が約5割となっています。一方、「平日に利用したい」は約2割、「土曜日に利用したい」(5.3%)、「休日に利用したい」(4.0%)を合わせて、週末に利用したい人は、約1割となっています。

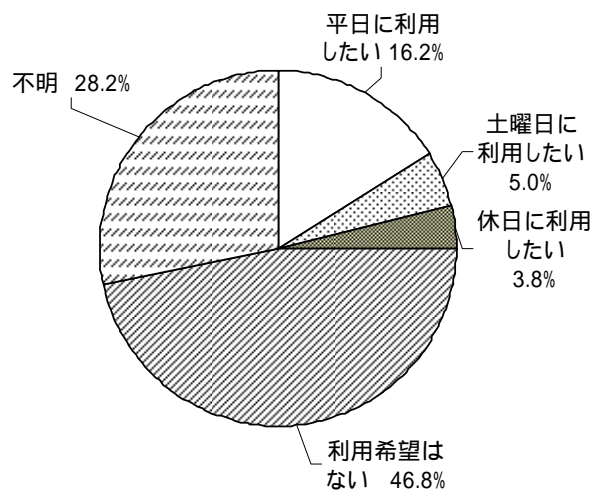
【小学校入学後の学童クラブの利用意向（就学前児童の保護者）】



N=920

出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童保護者調査）」平成20年

【学童クラブの利用希望意向（小学生の保護者）】



N=924

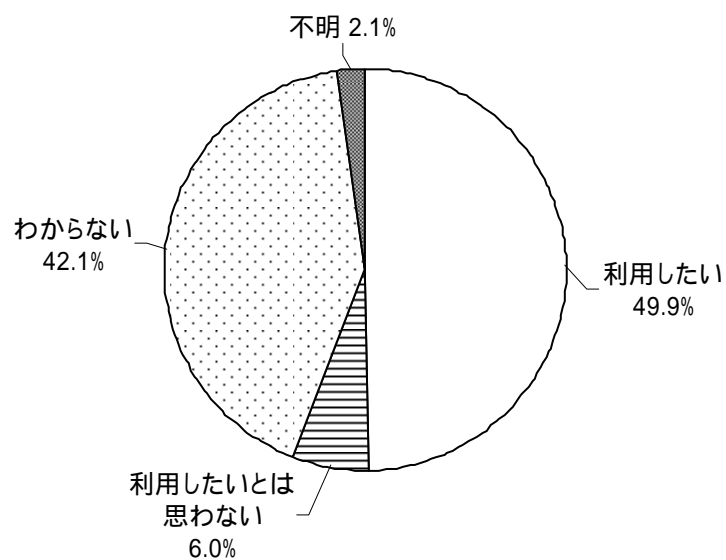
小学校3年生まで（障害のあるおひさんは6年生まで）の保護者  
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（小学生の保護者調査）」平成20年



## 5 - 10 放課後子どもひろばの利用意向等

就学前児童の保護者では、子どもが小学校に入学したあと、「放課後子どもひろばを利用したい」とする人の割合が約5割となっています。

【小学校入学後の放課後子どもひろばの利用意向（就学前児童の保護者）】



N = 920

出典：新宿区「新宿区次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」H21年

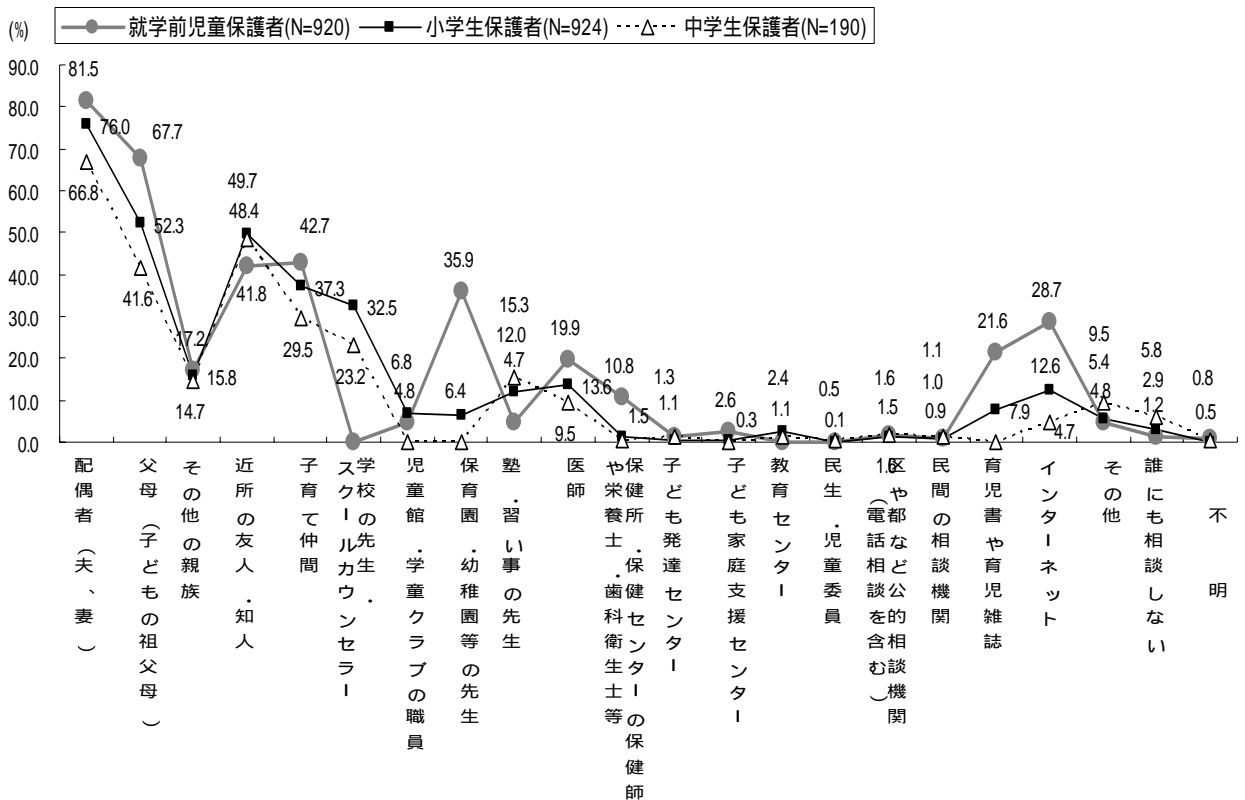
## 5 - 1 1 わからないこと、困ったこと、悩みごとがあるときに相談する相手

困ったこと、悩みごとがあるときの相談相手は、子どもの年齢に関わらず、「配偶者」の割合が最も高くなっています。

その他、「父母（子どもの祖父母）」、「近所の友人、知人」の割合が高く、身近な家族や友人・知人が多くあげられています。

就学前児童の保護者では、「インターネット」（28.7％）の割合が、他の年齢の子どもの保護者より高くなっています。

【困ったこと、悩みごとがあるときの相談相手】



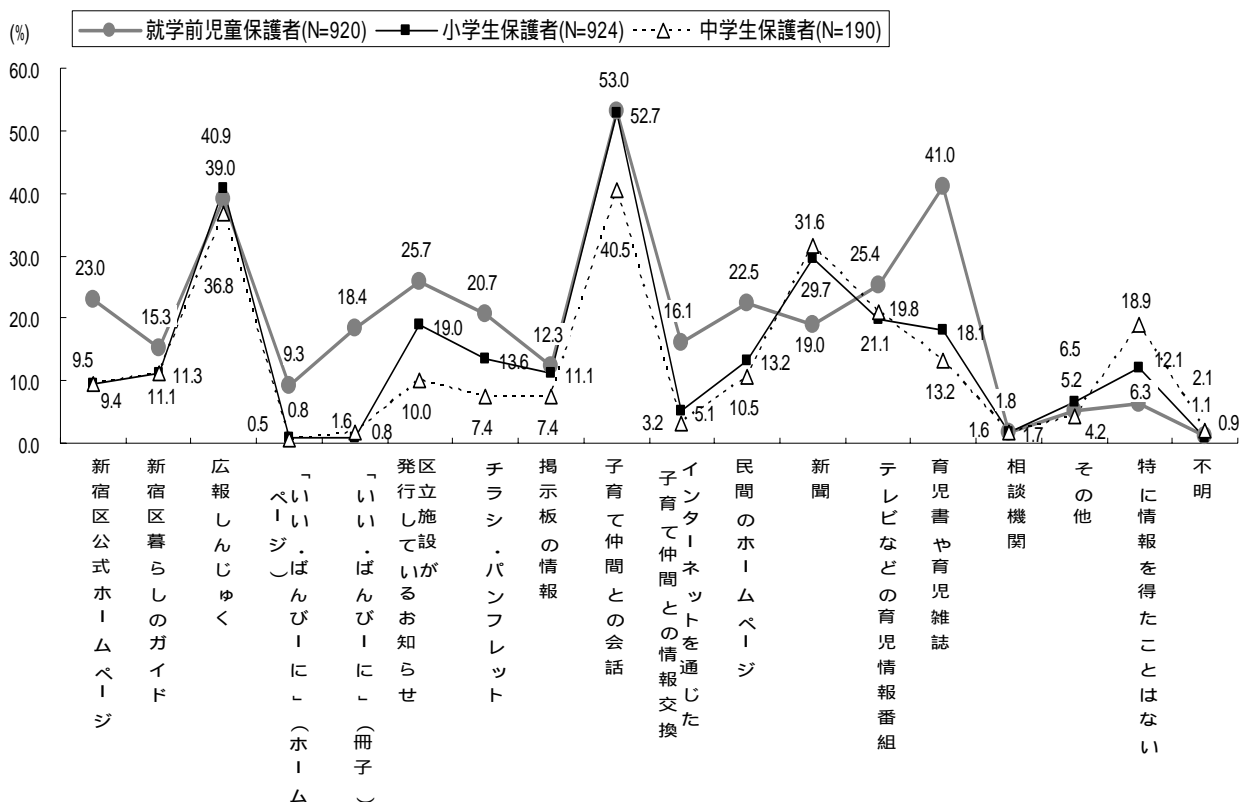
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

## 5 - 1 2 子育てに関する情報をどのように得ていますか

子育てに関する情報をどのように得ているかをみると、子どもの年齢に関わらず、「子育て仲間との会話」の割合が最も高くなっています。次いで「広報しんじゅく」の割合が高くなっています。

就学前児童の保護者では、「育児書や育児雑誌」(41.0%)の割合が、他の年齢の子どもの保護者より高く、また、「区立施設が発行しているお知らせ」(25.7%)、「新宿区公式ホームページ」(23.0%)の割合も高くなっています。

【子育てに関する情報をどのように得ていますか】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年

### 5 - 1 3 新宿区の子育てのしやすさ

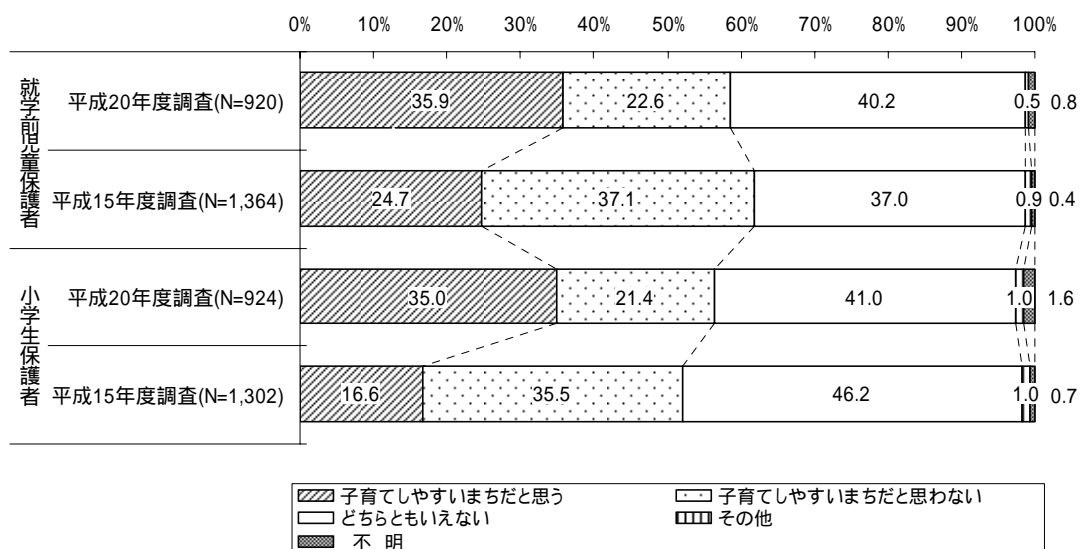
就学前児童の保護者、小学生の保護者ともに、平成 15 年度調査より、新宿区が「子育てしやすいまちだと思う」とする人の割合が高くなっています。

親の就労状況別に、区の子育てのしやすさをみると、就学前児童の母親では、「子育てがしやすいまちだと思う」割合は、「パートタイム」が最も高く、38.7%となっています。次いで「フルタイム」が35.9%、「無職・家事専業」が34.9%となっています。

世帯の収入別にみると、「子育てしやすいまちだと思う」の割合が最も高いのは、「1,000万円～1,500万円未満」で、39.5%となっています。

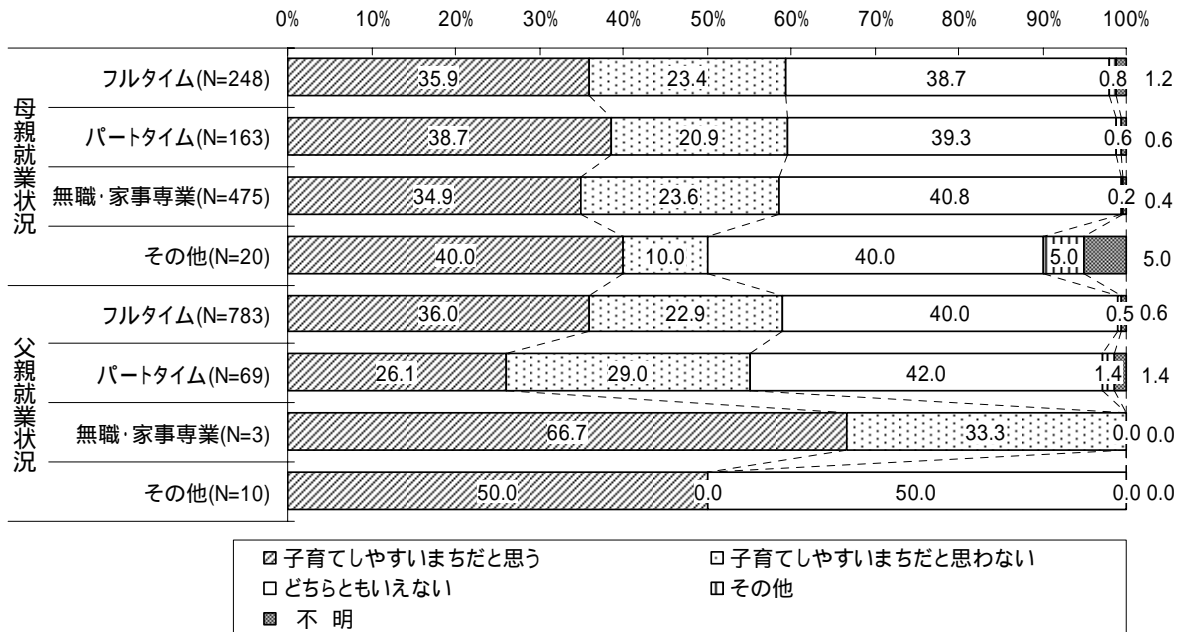
最も割合が低いのは「200万円未満」で、26.3%となっています。また「1,500万円以上」が次いで30.8%となっています。

【新宿区の子育てのしやすさ】



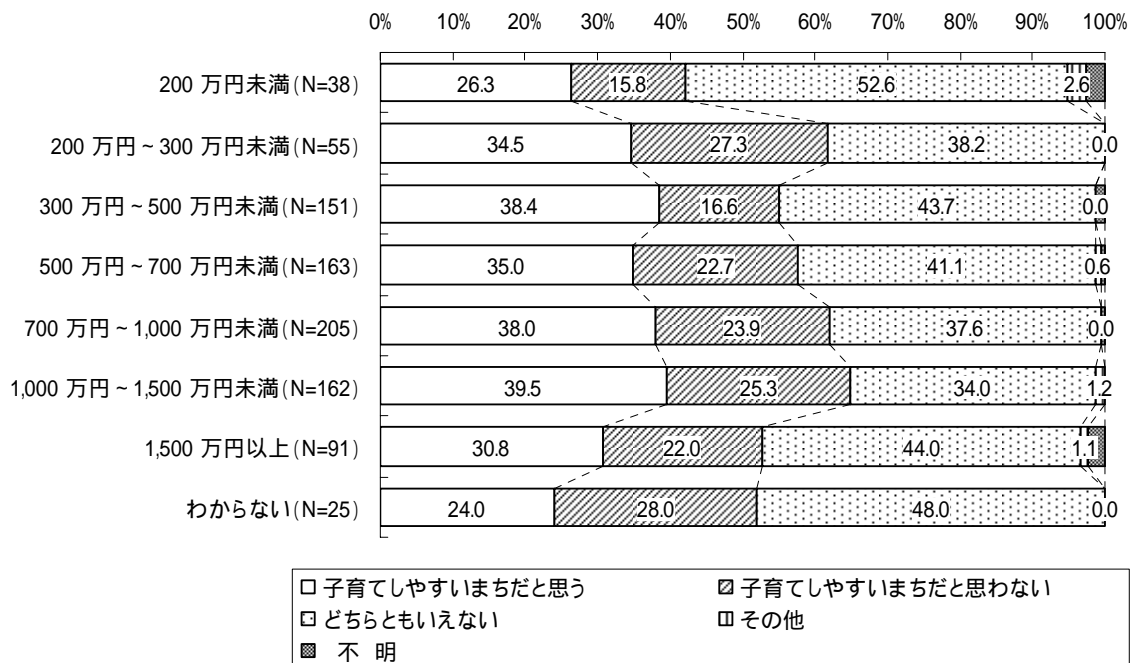
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

【就労状況別の新宿区の子育てのしやすさ（就学前児童の保護者）】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成 20 年

【世帯収入別の子育てのしやすさ（就学前児童の保護者）】



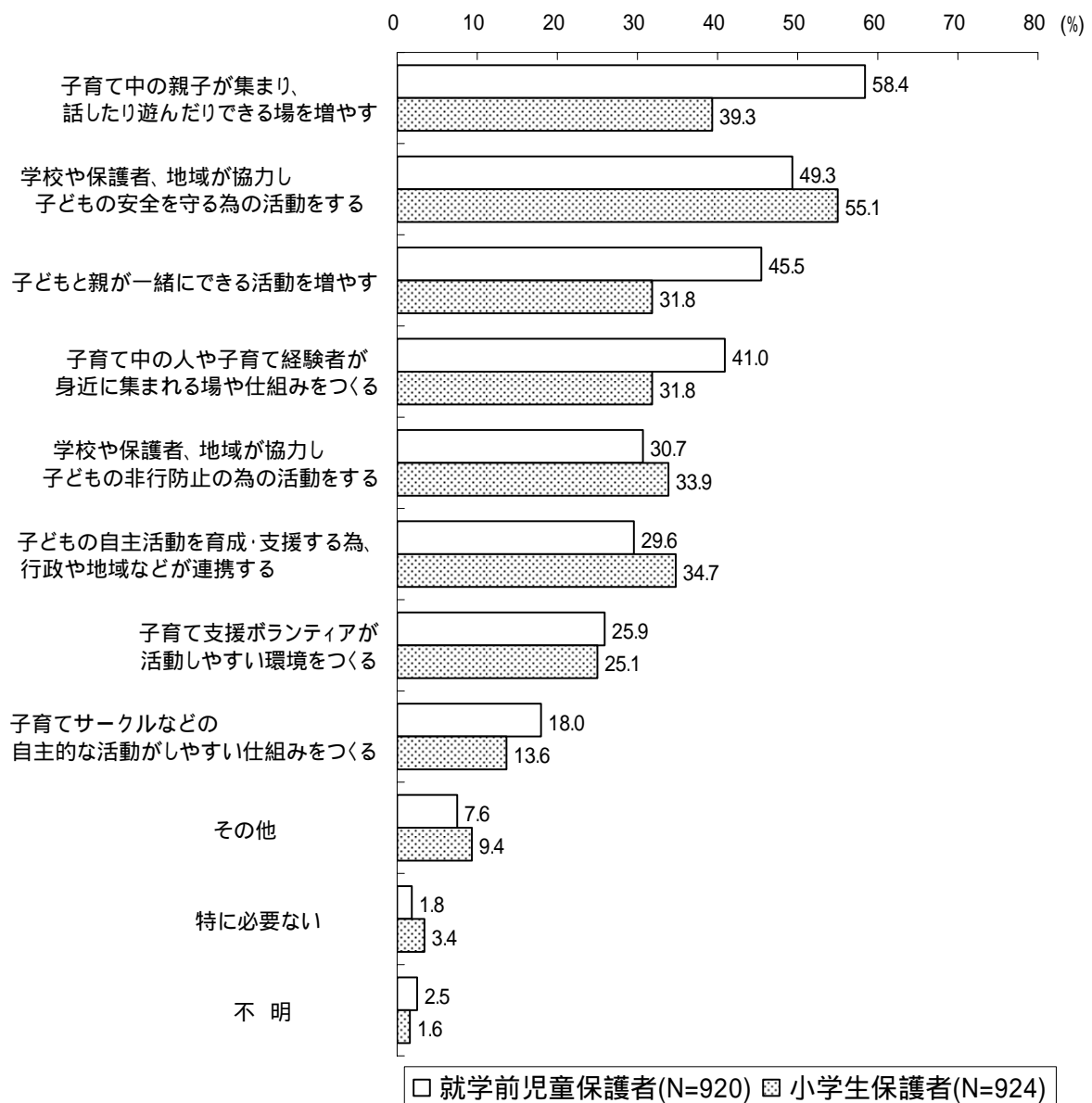
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成 20 年

## 5 - 1 4 地域で求められる子育て支援の取組み

就学前児童の保護者では、「子育て中の親子が集まり、話したり遊んだりできる場を増やす」が58.4%で、最も割合が高くなっています。次いで「学校や保護者、地域が協力し子どもの安全を守るための活動をする」が49.3%となっています。

小学生の保護者では、「学校や保護者、地域が協力し子どもの安全を守るための活動をする」が55.1%で最も割合が高く、次いで「子育て中の親子が集まり、話したり遊んだりできる場を増やす」が39.3%となっています。

【安心して子育てするために、地域で必要だと思う取組み】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年

5 - 15 子どもを育てやすい社会に必要なこと

就学前児童の保護者について、子どもを育てやすい社会に必要なことを世帯の収入別にみると、全ての世帯で、「児童手当や税金・教育費の軽減など経済的援助」の割合が最も高く、特に「200万円未満」では約90%となっています。「児童手当や税金・教育費の軽減など経済的援助」と回答する割合は、世帯の収入が上がると、割合が下がる傾向となっています。

「700万円～1,000万円未満」、「1,000万円～1,500万円未満」、「1,500万円以上」では、「保育サービスの充実(待機児解消、一時保育、病後児保育など)」の割合が、上記の経済的援助に次いで高く、40%以上の割合となっています。

その他では、「子育てをしやすい職場づくりのための支援」、「子どもの安全・安心が守られる社会」の割合が高くなっています。

【子どもを育てやすい社会に必要なこと】

表 1	児童手当や税金・教育費の軽減など経済的援助	子育てをしやすい職場づくりのための支援	画の意識づくり	男性も女性も家事・育児に参加する男女共同参画の意識づくり	後児保育など)	待機児解消、一時保育、病後児保育など)	保育サービスの充実(待機児解消、一時保育、病後児保育など)	質・内容の充実	学童クラブの保育の充実	子どもが安心して放課後を過ごすことのできる居場所づくり	子どもが安心して放課後を過ごすことのできる居場所づくり	子どもの相談支援体制の整備	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	公園や遊び場の充実	子どもの安全・安心が守られる社会
200万円未満(N=38)	89.5	26.3	13.2	36.8	7.9	15.8	2.6	7.9	28.9						
200万円～300万円未満(N=55)	78.2	43.6	5.5	27.3	5.5	25.5	1.8	7.3	20.0						
300万円～500万円未満(N=151)	76.8	31.8	9.3	32.5	5.3	19.2	3.3	15.9	31.1						
500万円～700万円未満(N=163)	71.2	31.3	11.7	35.6	4.9	15.3	3.7	12.9	33.1						
700万円～1,000万円未満(N=205)	58.0	35.6	17.1	45.9	8.8	21.0	4.9	6.8	30.2						
1,000万円～1,500万円未満(N=162)	54.9	34.0	11.1	46.3	10.5	13.0	1.2	15.4	31.5						
1,500万円以上(N=91)	42.9	44.0	18.7	49.5	15.4	12.1	3.3	9.9	22.0						
わからない(N=25)	60.0	16.0	12.0	28.0	4.0	16.0	4.0	20.0	44.0						

表 2	子どもや子育て中の親に対する社会の暖かい目	子ども連れで外出しやすいまちづくり	子育て仲間を作ったり、気軽に相談できる場の充実	子どもが相談できる相談窓口の整備	学校教育の充実	身の回りの世話をしている方が健診・検診を受ける際の一時保育	小児科・小児歯科などの医療機関情報の提供	不妊治療や産科の医療機関情報の提供	妊婦健診の充実
200万円未満(N=38)	13.2	10.5	-	-	13.2	5.3	13.2	2.6	2.6
200万円～300万円未満(N=55)	14.5	10.9	7.3	-	5.5	9.1	7.3	1.8	16.4
300万円～500万円未満(N=151)	15.9	12.6	6.0	2.0	9.9	2.0	7.3	4.6	3.3
500万円～700万円未満(N=163)	13.5	16.6	7.4	3.1	11.0	6.1	9.2	1.8	4.9
700万円～1,000万円未満(N=205)	11.2	15.1	4.4	-	11.7	6.8	5.9	2.9	4.9
1,000万円～1,500万円未満(N=162)	16.7	13.6	6.2	1.9	17.3	4.3	4.9	4.9	2.5
1,500万円以上(N=91)	12.1	18.7	2.2	-	17.6	5.5	3.3	5.5	5.5
わからない(N=25)	16.0	24.0	4.0	-	28.0	4.0	16.0	4.0	-

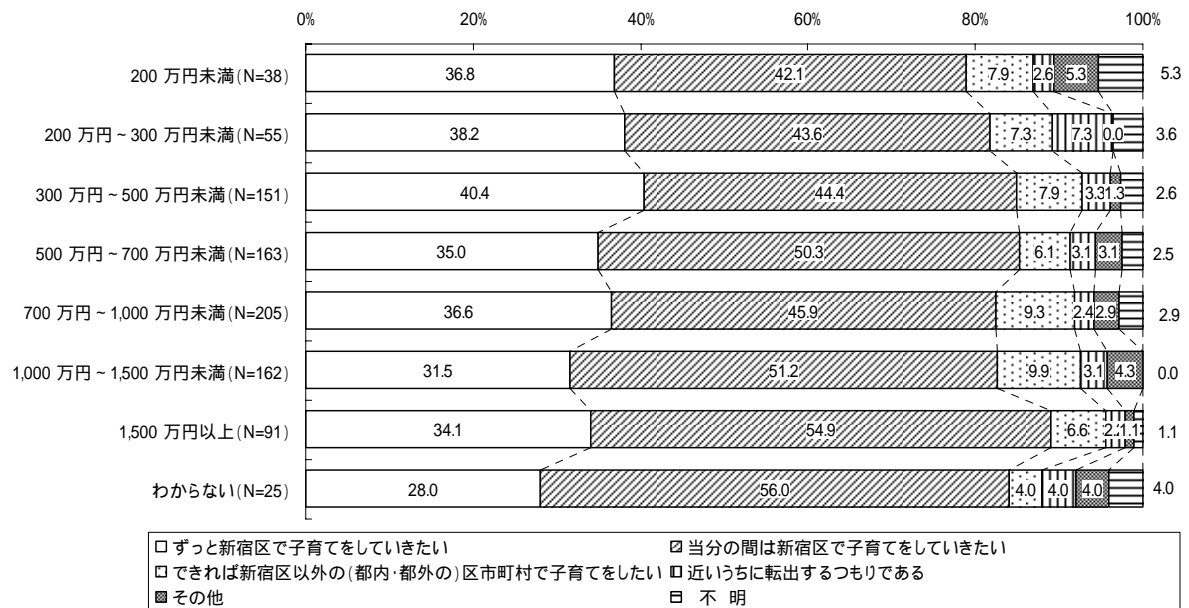
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査(就学前児童の保護者調査)」平成20年

## 5 - 1 6 新宿区での子育ての継続意向

新宿区での子育ての継続意向について、世帯の収入別にみると、「ずっと新宿区で子育てをしていきたい」と回答した割合が最も高いのは、「300万円～500万円未満」で、40.4%となっています。次いで「200万円～300万円未満」が38.2%となっています。

「ずっと新宿区で子育てをしていきたい」と「当分の間は新宿区で子育てをしていきたい」を合わせ、区で子育てを継続したいと考えている人の割合では、「1,500万円以上」が89.0%で最も割合が高くなっています。

【新宿区での子育て継続意向】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（就学前児童の保護者調査）」平成20年

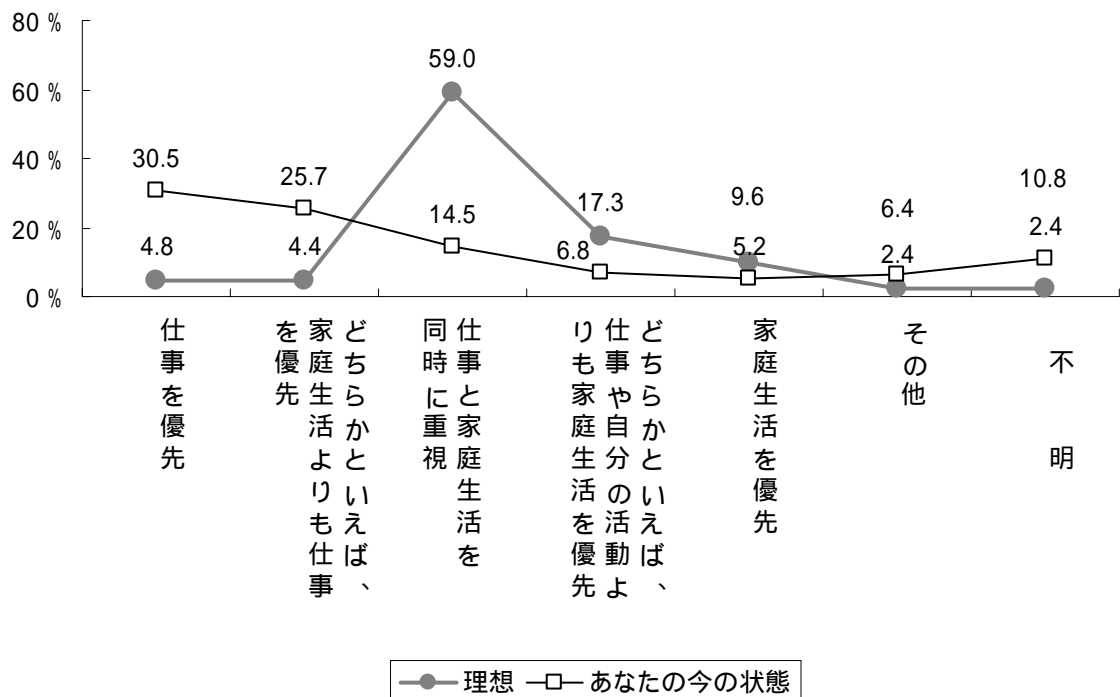


## 5 - 17 仕事と生活のバランス

仕事の生活の理想と現実についてみると、理想では「仕事と家庭生活を同時に重視」が59.0%で割合が高くなっていますが、現実では14.5%で、理想と現実とに大きく差が開いています。

また理想では「仕事を優先」(4.8%)、「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事を優先」(4.4%)の回答の割合は低くなっていますが、現実では割合が高くなっており、ここでも理想と現実とで開きが生じています。

【仕事と生活のバランスについての考え方】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（少子社会に関する調査）」平成20年